

## 薬に対する患者の対応

松岡, 緑  
九州大学医療技術短期大学部

<https://doi.org/10.15017/105>

---

出版情報 : 九州大学医療技術短期大学部紀要. 6, pp.31-37, 1979-03-25. 九州大学医療技術短期大学部  
バージョン :  
権利関係 :

# 薬に対する患者の対応

松 岡 緑

The Patients' Reactions to Medicines

Midori Matsuoka

## はじめに

患者の立場から薬について調査した報告は見当らないようである。薬の生産量は年々増大する傾向にあるが、一般患者は指示どおり服用しているのだろうか。副作用についてどのように考えているのだろうか。薬についてどの程度の説明を受けているのだろうか。といった素朴な問が次々と浮んでくる。

このような観点から薬の問題を取り上げてみることも有意義なことと思われる。それゆえ著者は九大病院に通院している再来患者 349名を対象として、薬に関するアンケート調査を行った。

## 対象および方法

### 調査対象

九大病院に通院している再来患者で、薬の内服を1ヵ月以上続けている者 349名について調査した。薬剤部待合室で以上の条件を満すものを次々と選んだ。年齢は3才から80才と広い幅があった。幼児は母親に記入してもらった。性別では、男性 180名、女性 169名でほぼ半々であった。これらのうち 196名は九大病院に入院した経験があった。

### 調査方法

九大病院薬剤部の待合室で、上記の対象者に

著者がアンケート用紙を直接手渡し、調剤の待合時間内に記入して貰った。アンケート用紙の質問項目は別表の通りである。

## 調査結果

### 1. 薬の好き嫌い

質問「薬好きなほうか、それとも嫌いなほうか。」

薬好き13.8%、薬嫌い36.1%、どちらともいえない49%、無答 1.1%であり、薬嫌いが薬好きの 2.6倍であった。

### 2. 服用の態度 (表1, 表2, 表3)

1) 質問 「病院から処方してもらった薬を決められた時間どおりのんでいるか。」

決められたとおりのんでいる72.2%、決められたとおりのんでいない 3.2%、どちらともいえない23.5%であった。

決められた時間どおり服用していない理由のうち、忘れるという答は67.7%と圧倒的に多く、面倒 9.7%、信頼できない 4.3%、気持ちが悪い 3.2%、のみ方がわからない 3.2%、その他 23.7%であった。但し重複回答あり。

2) 質問 「病院から処方してもらった薬を決められた量どおりのんでいるか。」

決められた通りのんでいる84.9%、決められた通りのんでいない2.9%、どちらともいえない10%、無答 2.3%であった。

決められた量どおり服用していない理由として、忘れる67.7%と高く、量が多い13.3%、何

薬に対する患者の対応

に効くかわからない11.1%，信頼できない 4.4%，気持ちが悪い 4.4%，その他13.1%であった。但し重複回答あり。

表1. 薬の服用態度（対象者 349名）

	指示時間どおり服用	投与量どおり服用
はい	72.2%	84.8%
いいえ	3.2%	2.9%
どちらともいえない	23.5%	10.0%
無答	1.1%	2.3%

表2. 指示時間どおり内服しない理由（対象者93名）

忘れる	67.7%
面倒	9.7%
信頼できない	4.3%
気持ちが悪い	3.2%
のみ方がわからない	3.2%
その他	23.7%

※重複回答あり

表3. 指示量どおり内服しない理由（対象者45名）

忘れる	53.3%
量が多い	13.3%
何に効くかわからない	11.1%
信頼できない	4.4%
気持ちが悪い	4.4%
その他	31.1%

※重複回答あり

3. 売薬の併用（表4）

質問 「病院でもらう薬以外に売薬をのんでいるか。」  
 いる28.4%，いない70.5%，無答 1.1%であった。売薬の内容は、漢方薬42.4%，保健薬33.3%，ビタミン剤20.2%，民間薬 8.1%，薬酒4%，その他11.1%であった。但し重複回答あり。

1) 売薬服用の動機

売薬併用者99名中、自分で薬店で求めた35.4%，知人や家族のすすめによる45.5%，コマーシャルを見て14.5%，その他16.2%であった。

2) 売薬併用の理由（表5）

早くよくなるため51.5%，病院の薬は信用出来ない2%，その他45.5%であった。

表4. 売薬の併用（対象者 349名）

いない	70.5%
いる	28.4%
無答	1.1%

表5. 売薬併用の理由（対象者99名）

早くよくなるため	51.5%
病院の薬は信用できないため	2.0%
その他	45.5%
無答	5.1%

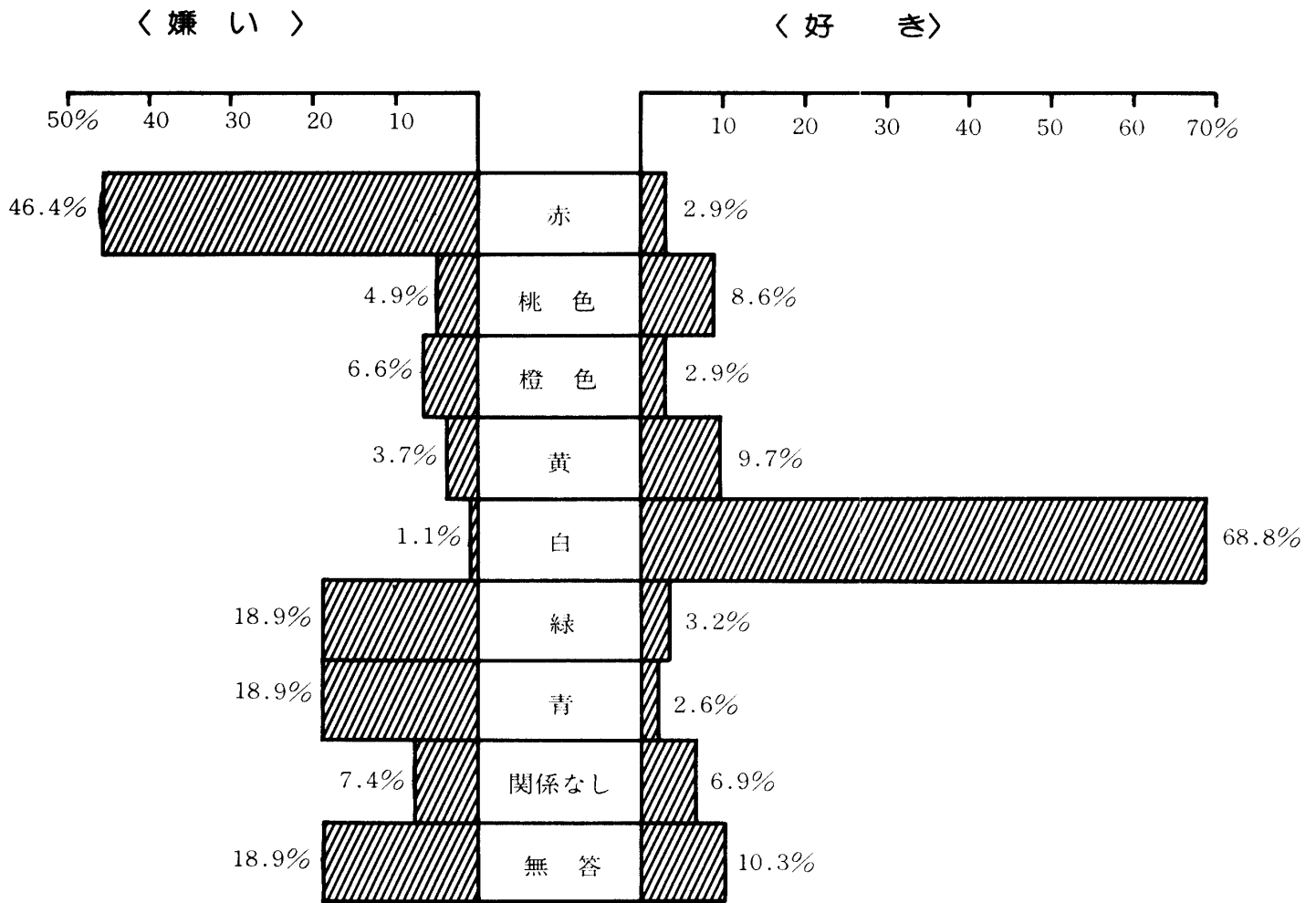
4. 薬の色に対する好き嫌い（図1）

1) 質問 「好きな薬の色はどれか。」  
 白68.8%，黄 9.7%，桃 8.6%，緑 3.2%，橙 2.9%，赤 2.9%，青 2.6%，どの色でもよい 6.9%，無答10.3%であった。但し重複回答あり。

2) 質問 「嫌いな薬の色はどれか。」  
 赤46.4%，緑18.9%，青18.9%，橙 6.6%，桃 4.9%黄 3.7%白 1.1%，どの色ともいえぬ 7.4%，無答18.9%であった。

以上の結果から、白色が最も好まれ、ついで黄、桃の淡い色が好まれた。反対に赤、青、緑等濃い原色系のものは嫌われた。

松 岡 緑



(重複回答あり)

図1. 薬の色に対する反応 (対象者 349名)

5. 投薬量について (表6)

質問 「病院からもらった薬の量についてどう思うか。」  
 適当53.3%, 多すぎる20.1%, 少なすぎる 0.7%, どちらともいえない25.2%, 無答 0.7%であった。

表6. 薬の量について (対象者 349名)

適 当	53.5%
多 ず ぎ る	20.1%
少 な す ぎ る	0.7%
ど ち ら と も い え な い	25.2%
無 答	0.7%

6. 薬の効きめについて

質問 「薬の効きめについてどう思うか。」  
 よく効くと思う44.7%, よく疑問を感じる 9.5%, どちらともいえない38.4%, 無答 7.4%であった。

7. 薬の連用について対する不安

質問 「同じ薬を連用して気がかりにならないか。」  
 不安になる40.4%, 不安にならない28.9%, どちらともいえない25.5%, 無答 5.2%であった。

8. 薬を服用しやすい時間

質問 「食前, 食間, 食後等薬ののみやすい順に番号をつけよ。」  
 服用しやすいのは食後52.1%, 食直後31.8%と

薬に対する患者の対応

食後が高く、寝る前11.2%、食前 5.7%、食間 1.1%、時間毎 0.8%であった。

9. 薬について患者が受けた説明

1)副作用について(表7)

a. 質問 「薬の副作用について説明してもらったことがある。」  
はい47.6%、いいえ48.7%、無答 3.7%であった。

副作用の説明者は、医師86.1%、看護婦 8.4%、知人 7.2%、薬剤師 5.4%、その他 5.5%であった。但し重複回答あり。

b. 質問 「薬の副作用について知っていた方がよいか」

よいと思う94.3%、思わない 1.1%、どちらともいえない 3.7%、無答 0.9%であった。

表7. 薬の副作用について (対象者 349名)

説明を希望する	94.3%	説明を受けた	47.6%
説明を希望しない	1.1%	説明を受けていない	48.7%
どちらともいえない	3.7%	無 答	3.7%
無 答	0.9%		

2)説明方法

a. 質問 「医師から受けた薬ののみ方の説明をどのように思ったか」

ていねい77.8%、ていねいでない10.9%、全く説明しない 6.7%、無答 4.6%であった。

b. 質問 「薬剤師から受けた薬ののみ方の説明をどのように思ったか」

ていねい64.2%、ていねいでない 7.7%、全く説明しない 6.7%、無答 8.6%であった。

c. 質問 「看護婦から受けた薬ののみ方の説明をどのように思ったか」

ていねい47.9%、ていねいでない 7.2%、全く説明しない29.2%、無答15.7%であった。

表8. 医師・薬剤師・看護婦の服用についての説明態度(対象者 349名)

説明態度	医師 (%)	薬剤師 (%)	看護婦 (%)
ていねいである	77.8	64.2	47.9
ていねいでない	10.9	7.7	7.2
全く説明しない	6.7	19.5	29.2
無 答	4.6	8.6	15.7

考 察

一般に患者は医師から投与された薬を忠実に服用しないことが多いと言われているが、調査結果に見られるごとく、多くの患者は投与された薬を指示時間に、決められた分量服用していた。もちろん、大学病院の患者と開業医の患者は状況が異なるので、この結果を広く一般的な結論とすることは出来ない。

また、いまの医者は多種多量の薬を投与しすぎる傾向があると言われているが、薬の量が適当であると答えた者は53%、多すぎると答えた者は20%で、半数以上は別に投薬量が多いと思っていない。もちろん医師により、病気の種類により薬の量は大きく変動するであろう。

薬の副作用について知りたいと答えた者は94.3%と極めて高率であったが、副作用の説明

を受けていた者は、患者の約半数であった。実際問題として、薬についていちいち副作用を説明して投与することは難しい問題を含んでいる。副作用に関心があるのは、薬害が大きな社会問題になっている世相を反映したものと考える。副作用の説明は、主として医師から聞き、薬剤師は殆んど行っていない現状である。その理由として、薬剤師はそのような場が少ないこと、医師の処方薬にいちいち副作用を説明することはできないことがあげられる。しかし、薬剤部に薬の相談コーナーのようなものがあったとしても良いのではなかろうか。なせならば、薬の連用について不安に思っている者40%、薬の効きめに疑問を持っている者 9.5%というデータは無視出来ない数字と思うからである。

注目すべき現象としては、漢方薬を併用する者が売薬併用者の42.4%もいることである。漢方薬ブームの世相の現れともいえるが、一考に価する問題である。

薬の服用についての説明は、医師がもっともていねいで、つづいて薬剤師、看護婦の順である。薬理作用の知識の差もあるかも知れないが、立場の相違にもよるものであろう。

薬の色は白色が圧倒的に好まれている。しかし、錠剤の色づけは、患者が薬を判別し易い利点もある。一方、赤、青、緑の原色系が嫌われ

る傾向があるのは、薬の色としては心理的に抵抗を覚えやすいためであろう。

指示どおり服薬しない理由として、忘れるという答えが多い。調査データの示すように、患者は本来薬が嫌いなものである。今後規則正しい服薬をするように、より一層の指導が望まれる。

### 結 論

九大病院に通院している再来患者 349名を対象として、薬についてアンケート調査を行った。主なる結果は次のようであった。

- 1)70%以上の患者は投与された薬を指示時間を守って指示量どおり服用していた。
- 2)殆んどどの患者が薬の副作用の説明を希望しているが、説明を受けたことがある者は約半数であった。
- 3)売薬を併用している患者は約4人に1人で、その約半数は漢方薬を服用していた。
- 4)薬の色は白色がもっとも好まれている。
- 5)薬は食後が最も服用しやすい。

終りに、九州大学医学部附属病院薬剤部長・堀岡正義教授のご助言に深謝致します。

— 別 表 —

### 薬に関するアンケート調査

このアンケート調査は、薬に対する患者さんの正しい理解と、薬剤の効果をあげるための基礎資料となるものです。薬について日頃どのように感じていらっしゃるかみなさまの卒直なご意見をお願い致します。

次の設問について該当すると思われる答えの番号を○印で囲んで下さい。ご協力をお願い致します。

Q 1. あなたは薬好きなほうですか。それとも嫌いなほうですか。

- (1) 薬好き (2) 薬嫌い  
(3) どちらともいえない

Q 2. あなたは九大病院の薬をのみはじめて、どのくらいになりますか。(期間)

Q 3. あなたは病院から処方してもらう薬を、きめられた時間(例えば、食後、食間、～時間毎等)どおりのんでいますか。

- (1) きめられた通りのんでいます。(Q 5.に進んで下さい)

- (2) きめられた通りのんでいない  
(3) きめられた通りのんでいる時もあれば、

薬に対する患者の対応

- のんでいない時もある  
 ((2), (3)と答えた人は, Q 4.に進んで下さい)
- Q 4. (きめられた通りのんでいない人に対して) その理由は何ですか。2つ以上に○印をつけても結構です。(次は, Q 5.へ進んで下さい)
- (1) 面倒だから (2) 信頼できないから  
 (3) のんだら気持ちが悪くなるから  
 (4) のみ方がよくわからないから  
 (5) 忘れるから  
 (6) その他 ( )
- Q 5. あなたは病院から処方してもらう薬を, きめられた量どおりのんでいますか。
- (1) きめられた通りのんでいる (Q 7.へ進んで下さい)  
 (2) きめられた通りのんでいない  
 (3) きめられた通りのんでいる時もあれば, のんでいない時もある ((2), (3)と答えた人は, Q 6.へ進んで下さい)
- Q 6. (きめられた通りのんでいない人に対して) その理由は何ですか。2つ以上に○印をつけても結構です。(次は, Q 7.へ進んで下さい)
- (1) 量が多すぎるから  
 (2) 信頼できないから  
 (3) のんだら気持ちが悪くなるから  
 (3) のんだ (4) 何に効くかわからないから  
 (5) 忘れるから  
 (6) その他 ( )
- Q 7. あなたは, 食前, 食間, 食後等の薬の内服の仕方で忘れずにのまれるのはどれですか。のみやすい順に ( ) 内に番号を入れて下さい。
- ( ) 食 前 ( ) 食 間 ( ) 食 後  
 ( ) ねる前 ( ) 時間毎 ( ) 食直後
- Q 8. 薬の色についておたずね致します。
- (1) 好きな薬の色…赤・黄・橙・緑・青・白  
 桃色  
 (2) 嫌いな薬の色…赤・黄・橙・緑・青・白  
 桃色
- Q 9. あなたは病院からもらう薬の量について

- どう思いますか。
- (1) 多すぎると思う (2) 適当  
 (3) 少なすぎると思う  
 (4) どちらともいえない
- Q 10. あなたは病院でもらう薬以外の売薬をのんでいますか。
- (1) いる (2) いない  
 (Q 11.に進んで下さい) ↓  
 (Q 15.に進んで下さい)
- Q 11. 病院でもらう薬以外の売薬をのんでいる人に対して (次は, Q 12. に進んで下さい)
- (1) 常用している→何種類 ( )  
 (2) ときどき用いる→何種類 ( )
- Q 12. どのような売薬をのんでいますか。(次は, Q 13.に進んで下さい)
- (1) 漢方薬 (2) 民間薬  
 (3) 保健薬 (胃薬) (4) ビタミン剤  
 (5) 薬 酒 (6) その他 ( )
- Q 13. どのようなきっかけで売薬をのむようになりましたか。(次は, Q 14.に進んでください)
- (1) 自分で薬店に行って  
 (2) コマーシャルをみて  
 (3) 知人にすすめられて  
 (4) 家族にすすめられて  
 (5) その他 ( )
- Q 14. なぜ売薬をのんでいますか。(次は, Q 15に進んで下さい)
- (1) 早くよくなるため  
 (2) 病院の薬だけでは信用できないため  
 (3) その他 ( )
- Q 15. あなたは薬の効きめについてどう思いますか。
- (1) よく効くと思う  
 (2) よく疑問を感じる  
 (3) どちらともいえない
- Q 16. あなたは, 同じ薬を連用して気がかりになりませんか。
- (1) 不安になる  
 (2) 不安にならない  
 (3) どちらともいえない
- Q 17. あなたは, 医師の薬ののみ方の説明をど

松 岡 緑

のように思いましたか。

- (1) ていねい
- (2) ていねいでない
- (3) 全く説明しない

Q 18. あなたは、薬剤師の薬ののみ方の説明をどのように思いましたか。

- (1) ていねい
- (2) ていねいでない
- (3) 全く説明しない

Q 19. あなたは、看護婦の薬ののみ方の説明をどのように思いましたか。

- (1) ていねい
- (2) ていねいでない
- (3) 全く説明しない

Q 20. あなたは、薬の副作用について説明してもらったことがありますか。

- (1) は い
- (2) いいえ

誰から…医師、薬剤師、看護婦、知人、  
その他 ( )

Q 21. あなたは、薬の副作用について知っていたほうがよいと思いますか。

- (1) 思う
- (2) 思わない
- (3) どちらともいえない

Q 22. あなたは、九大病院に入院したことがありますか。

- (1) ある
- (2) ない

(次は、Q 23.に進んで下さい)

Q 23. あなたは、九大病院入院中に看護婦より薬ののみ方について説明を受けたことがありますか。

- (1) ある
- (2) ない

何科 ( ) 性別 ( 男 ・ 女 ) 年齢 ( ) 才

ご協力ありがとうございました。

九州大学医療技術短期大学部

松 岡 緑